

全学

キリスト教関連行事：イースターとクリスマスを振り返って

松坂政広 木村 翠

自由学園は、キリストを唯一の教師とし、礼拝をもって一日を始めることを大事にしてきました。生活即教育の営みの礎がそこにあります。そんな中、本稿では、イースターとクリスマスに特化して今年度の取り組みを記します。イースター礼拝とクリスマス礼拝、及びアドベントの取り組みを松坂が、クリスマス音楽会と午餐会を木村が、担当します。

(1)イースター礼拝

イースター礼拝は、4月11日、高等部の高田先生が司会を、佐々木先生が奏楽を、中部部、高等部、学部からそれぞれ委員長が聖書朗読を、コーラス部が特別賛美を、保護者を含む会衆がイースターの賛美を、そして松坂宗教主任が、ヨハネによる福音書20章から、復活されたイエスから授かった使命と題してメッセージと祝祷を担当しました。メッセージは、以下のとおりです。

金曜日十字架で息を引き取ったイエスが、埋葬されていた墓に、日曜日マグダラのマリアが行ってみると、墓から石を取り除けてあって、そこにはイエスの姿が見えなかった。というのは、彼女が、そのことをふたりの弟子に報告すると、彼らも駆けつけてみるわけですが、この時点で、9節でふたりの弟子は、「イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかった」と記されています。この箇所からうかがい知ることは、①イエスが復活された直接の目撃者はいなかった！（いたとしたら、死者たちということになるかもしれませんが）ということですが、イエスが死から復活される。ではなく、イエスが死者たちの中から復活されると、原語のギリシャ語聖書に記されているのは、十字架で死なれたイエスが、黄泉にくだられて、②そこで沢山のすでに亡くなった方々に会われて、そこから復活されるという、死で終わらないという、その先に復活があるという希望のメッセージが込められているかと思われます。そして、③二人がまだ理解していなかったということは、その後、理解する可能性があるということでもありますね。

復活されたイエスがマグダラのマリアに現れて、何と言

われたかという、「わたしの、そしてあなたがたの、父であり、神であるお方のところへわたしは上る。それは帰って行くということです。」復活されて、40日後にイエスが天に帰って行かれて、その後、ペンテコステという教会の誕生日を迎えるわけですが、そこからイエスの救いが全世界に宣べ伝えられていきます。神の右に座して、わたしたちをとりなしてくださるためでもありますね。イエスが復活された直接の目撃者はいなかったわけですが、その後、一人、二人、三人と復活されたイエスが出会って行かれたことが、その事実を物語っています。

さらに、イエスは弟子たちに現われて、平和を授け、弟子たちを遣わされるに当たって、彼らを励まし、託された使命はというと、罪が赦されるためでした。罪が赦されるということに、イエスの絶大な関心があるということですよ。

イエスがトマスに言われたことは、見ないで信じる人たちは幸いです。でした。イエスが復活された直接の目撃者がいなかったばかりか、復活されたイエスを見ないでも、信じるのが幸いだというのなら、信じるってことの中に、見るという要素が限りなく小さいということになるでしょう。

聖書は、わたしたちが命を受けることに何よりも関心があって、自由学園が、一生につなぐ毎日がここにある！と謳っているように、聖書も、わたしたちが命を受けることに絶大な関心があるということですね。

今朝は、イースター礼拝をささげています。イースターとは、復活祭といいますね。イエスが十字架で死んで、黄泉にくだられて、3日目に死者たちの中からよみがえられた！ことを記念する礼拝ですね。イエスは必ず死者たちの中から復活されることになっている。わたしたちが命を受けるためですね。それは、罪が赦されることを通してでもある

のですね。復活されたお方がわたしたちと出会ってくださって、わたしたちが命を受けるという今朝の聖書が物語っていることは、罪が赦されることを通してなんですね。

わたしたちは、主の祈りを祈ります。これは、わたしたちを赦してください。の祈りでもあります。わたしたちを赦してください。わたしたちの負い目とわたしたちに負い目のある人を。あるいは、わたしたちを通して、わたしたちの負い目とわたしたちに負い目のある人を赦してください。とも訳しうる内容です。イースターの恵みは、この赦しを通して2000年の間、語り継がれてきました。これは、古くて新しい良き音ずれです。

(2) アドベント

生活団では12月11日に5,6才組の降誕劇を通して、イエス様のご降誕を祝いました。同日にお祝いのお食事もいただきました。



生活団の子どもたちによる降誕劇



生活団 クリスマスのお食事

初等部では12月3日から、毎朝の礼拝ではクリスマスの讃美歌を讃美し、関連するお話を聞きました。12月19日

のクリスマス礼拝では、1年生の朗読劇、各学年の讃美歌斉唱も行われた。同日にお祝いのお食事を全校でいただきました。



初等部 クリスマスの装飾



初等部 クリスマスの食卓

自由学園中等部・高等部のクリスマスアドベント(待降節)の取り組みの一環として、喜びの賛美と感謝の祈りを企画し、実行に移しました。更科学園長、松坂TLP宗教主任、木村SSSは、10月初旬以降祈りのうちに話し合いを重ねて、待降節の企画をふたつにまとめました。その一つが、キャロリングです。正門近くの記念碑付近で有志によるクリスマスの賛美を7時45分から5分間、12月4日(水)スタートで、年内最終授業日16日(月)までの9日間(月一金)、讃美歌94番から始めて、119番に至る9曲を毎日1曲ずつさげました。9日間でのべ235名の参加者を得て、主はわたしたちの賛美を喜び、受け入れてくださったでしょうか。もう一つは、学園各部署の働き人を覚えて、アドベントカレンダー

一で感謝の祈りをささげました。中等部、高等部それぞれの朝の礼拝用に、ツリー状の物を装飾担当の高3の岡田さん、神さん、柿崎さんに金井先生のご指導のもと、作っていただきました。そして、12月5、6、9、10、11、12、13、16の8日間、食糧部(毎日校舎の中心にある食堂に集まり、全員で食事を共にする時間を大切にできる環境を整えていただいて、ありがとうございます。)、事務(生徒や教員にとってもお姉さんのような存在でいてくださって有難いです。)、健康管理室(わたしたちが元気になるように、元気であるように寄り添っていてくださって、ありがとうございます。)、図書館/資料室(わたしたちが学園に親しむ手助けを、また書物に触れる機会を与えていただいて、ありがとうございます。)、広報室(わたしたちと共に学園を広めてくださって、ありがとうございます。)、総務部(わたしたちが気持ちよく学園生活を送れるように働いてくださり、ありがとうございます。)、守衛(いつもわたしたちを守っていてくださって、ありがとうございます。)、理事会(わたしたちがいっつも世の光、地の塩として成長していけるよう激励して下さることを感謝しています。)で常日頃ご尽力いただいている皆さんを覚えて、お名まえを挙げて、木村SSSが中等部に、松坂TLP宗教主任が高等部に遣わされて生徒の皆さんと感謝祈りをささげました。上記二つを11月20日教職員で、27日合同礼拝の報告で生徒の皆さんと情報共有して、進めました。

(3)クリスマス礼拝

中・高等部のクリスマス礼拝は、12月19日、司会を寺尾先生が、奏楽を佐々木先生が、聖書朗読を中等部、高等部、学部委員長が、クリスマス賛美を保護者を含む会衆が、そしてメッセージ「平和の君は、隣人となるプロセスを通して平和を実現しておられる！」と祝祷を松坂宗教主任が担当しました。メッセージは、以下のとおりです。

学園の平和って、何だろう？皆さんに耳を澄ませて聴こえてくる声は、安心して過ごし、小さなことでも幸せを感じられること。そっと手を差し伸べる、声をかける、違いを認識する、人と人とが手を繋ぐこと。子どもたちが、お腹いっぱいになって笑顔になること。認め合い、人も自分も否定しないこと。笑い合える仲間がいること。意見の異なる友だちができること。それは、対話と理解で促進される。相手をゆるすことでもたらされる。平和の君はどのように導いてこれ

たでしょうか？わたしたちが、地の塩、世の光となる働きが、これまで続けられてきました。平和を探究するプロジェクトが積極的に取り組まれたりもしてきました。平和な社会を創造する営みが続けられています。わたしは、それは、お互いが、すぐ隣にいる人の文字通り、隣人となるというプロセスを通してではないかとイメージしています。

中等部の小磯さんに読んでいただいた箇所イザヤ9:1-5には、神が人となって来てくださったみ子イエスが、平和の君と呼ばれるとありました。預言者イザヤがみ子のご降誕の700年前に預言したものです。最高学部の西さんに読んでいただいたエフェ2:14-21には、キリストがわたしたちの平和で、キリストが平和をもたらされたのは、敵意という隔ての壁を取り壊してくださって、わたしたちが神の住まいとなるとありました。高等部の羽深さんと福島さんに読んでいただいた箇所ルカ15:11-32には、神との平和も人と人との間の平和も、どのようなプロセスを通してもたらされるかが描かれていました。平和の君は、わたしたちに、神との和解をもたらし、そして人と人との間の敵意の壁を取り壊してくださる！そのことがよくわかる物語を、分かち合わせていただきます。それは聖書の中で、失われた息子の物語と呼ばれています。今朝皆さんと共有させていただこうとしているメッセージは、平和の君は、隣人となるプロセスを通して、平和を実現してくださる！です。

氷山の一角と言いますが、それは、見えている部分の7倍、海の下に存在しているからですね。この物語の真理を一番伝えたい相手は、兄、つまりバリサイ人、律法学者ということになります。失われた息子は、弟だけじゃない。兄こそその当事者だと。弟も兄も共に立ち直らせようと心砕く父の物語がここにありますね。存命中の父に財産分与の要求をつきつけた弟息子に父は黙って応じました。そこにこの息子は、必ず帰ってくる！と信じている父の思いが埋もれていました。そんな父を踏みにじるようにして、一刻も早く自由になったかった弟息子は、故郷を後にしましたね。このこと自体が、父に対して罪を犯した！という弟息子の思いとなるんですね。弟は、せっかくの財を歯止めの利かない放埒さで浪費しました。これが又、父に対して本当に申し訳ないことをした！と。救いを決定づけたのは、父親が、遠くから彼を見つけ出し、自ら走り寄って、全身全霊をもって受け入れて、息子から何も聞かないうちに、自ら和解を示されました。これが、弟に変化をもたらしました。彼には、雇い人のことを口にする必要がなかった。なくなったのです

ね。父は、祝宴の最中に自ら出てきて、不満をあらわにしている「兄」をなだめました。もう一人の失われた息子も取り戻そうと心砕くのですね。父は、半ば奴隷根性でお仕えてきたと口にする兄に、共に弟を受け入れるところへ導くために、ひたすら愛を注ぐことに専念します。弟息子は、父なき世界へ旅立ちました。金がなくなると共に楽しみは消え、彼を助け起こす友だちも消えました。そんな彼がまず、我に帰った。これが、悔い改めの始まりでした。そして、帰るべきは、父のもとだと気づく。彼は決断し、告白しようと父のもとへ帰っていきました。そこには、父の赦しが備えられていました。死んでいた息子が生き返った。いなくなっていた息子が見つかった。失われたものを探し出し、救い出してくださる主イエスのこのたとえは、エルサレムに向かう十字架への道で語られました。尊い代価を払って、救いの道を備えてくださった。

最後に、聖フランチェスコの平和を求める祈りの一部を共有させていただきます。神よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使いください。慰められるよりは慰めることを、理解されるよりは理解することを、愛されるよりは愛することを、わたしが求めますように。平和の君が、隣人となるプロセスを通して、平和をもたらしてくださることを感謝します。主イエスのみ名で祈ります。アーメン。

(4)クリスマス音楽会

12 月 19 日、クリスマス礼拝の後にクリスマス音楽会が行われました。音楽によってイエス・キリストのご降誕を祝うひと時です。ウインドオーケストラ、弦楽オーケストラ、そして合唱による、純粋で美しい音色が響きました。

プログラムの終盤には、最高学部生・高等部生にコーラス部の中等部生も加わって、ヘンデル作曲『メサイヤ』より「ハレルヤ」を歌いあげました。練習期間中には、松坂宗教主任による学びのサポートもあり、ハレルヤコーラスによって表現される聖書箇所について、また言葉のアクセントについて学んだうえでの合唱となりました。

プログラムの最後には、「きよこの夜」を会場全員で合唱し、救いの御子が暗く静かな中にお生まれになったことに思いを馳せる時となりました(当日プログラム別紙)。

(5)クリスマス午餐会

12 月 20 日、中等部・高等部・最高学部合同でクリスマス午餐会が行われました。皆でお食事を囲むことによってイ

エス・キリストのご降誕を祝うひと時となりました。お料理は高等部 2 年生から学部生有志までの多学年で作りました。メイン会場の高等部食堂は、装飾の係によって特別な飾り付けがされました。準備の段階では、装飾の係と木村 SSS でクリスマスにふさわしい飾りとは何かを考えました。あまり派手になりすぎず、また世間的なイメージの強いサンタクロースやトナカイをモチーフにするのもない、イエスがお生まれになったことに思い巡らすことができるような装飾とは何かを探りました。

当日は次々と報告者がマイクを持ちました。各部への贈り物の報告では、幼児生活団や初等部に出向いて、雨樋掃除や側溝の泥すくいといった、普段の生活ではなかなかできない働きをしたことが紹介されました。お互いの手の届かないところを補い合う、自由学園の良き文化が続いています。献金の係からは、集金状況が報告されました。贈り物も献金も、私たちがキリストという最高のプレゼントをすでに受け取っていることへの感謝と応答です。担当の生徒たちは、このことをよく受けとめ、係の仕事に向き合ってくれました。

資料室の村上さんは、長い歴史の中でクリスマスがどのように迎えられてきたかをお話くださいました。特に、戦中・戦後の食糧が乏しい時代にも工夫して心のこもったご馳走を準備し、中国や台湾にいる家族と連絡が取れない生徒には手作りの靴下を贈ったという記録があるというお話や、「旅人を懇ろにもてなせ」という創立者の言葉のもと、GHQ の関係者を午餐会に迎えたというお話はとても印象的でした。立場を超え、国を超えて助け合い、イエス・キリストによってひとつにされる学園のクリスマスは、今も昔も変わらないことを確かめました。

松坂宗教主任のお祈りによって開会し、讃美「もろびとこぞりて」によって閉会する、キリストのご降誕を皆で喜び味わう会となりました。

2024年度クリスマス音楽会プログラム

2024年12月19日(木) 記念講堂

1、ウィンドオーケストラ

ジェームズ・バーンズ作曲「アパラチアン序曲」

セザール・フランク作曲 アルフレッド・リード編曲「天使の糧」

指揮 佐伯正則

2、弦楽オーケストラ

ピーター・ウォーロック作曲『カプリオル組曲』より

第1曲 バスダンス 第2曲 パヴァーヌ 第3曲 トルディオン 第6曲 マッタシン

久石譲作曲「海の見える街」

3、最高学部コーラス

村本晋也作詞・作曲『月の世界へ』より「この船の行く先で」

指揮 永野馨 ピアノ 関口美彩江

4、中等部・高等部

寛和歌子作詞・横山潤子作曲『その木々は緑』より「その木々は緑」

指揮 岩本晃子 ピアノ 佐々木順子

ヴァイオリン最高学部3年生 堀越明

5、コーラス部有志

スピリチュアル プライアン・トラント編曲「Deep River」

指揮 永野馨 オルガン 佐々木順子

6、中等部コーラス

フレデリック・マーテンス作詞・木岡英三郎訳詞・ピエトロ・ヨン作曲

「冬の夜の雪にさきそめたる」

指揮 佐伯美和 オルガン 佐々木順子

7、最高学部・高等部・コーラス部

ゲオルグ・フリードリヒ・ヘンデル作曲 オラトリオ『メサイア』より「ハレルヤ」

指揮 岩本晃子 オルガン 佐々木順子 ティンパニ 木村翠

8、全員合唱

讃美歌109番「きよしこの夜」

指揮 岩本晃子 オルガン 佐々木順子

ウクレレ 中等部2年生 リコーダー 高等部3年生音楽選択者

間奏 中等部2年生による創作